

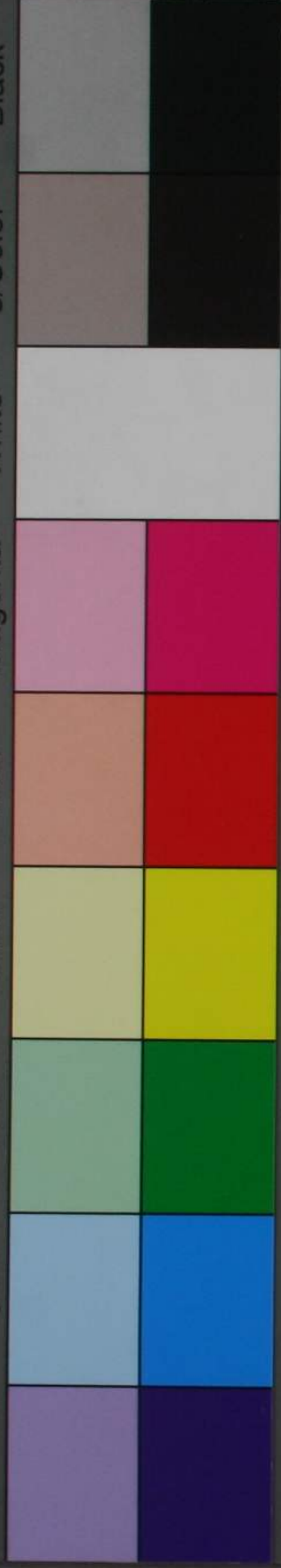
Centimetres 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19

Kodak
LICENSED PRODUCT

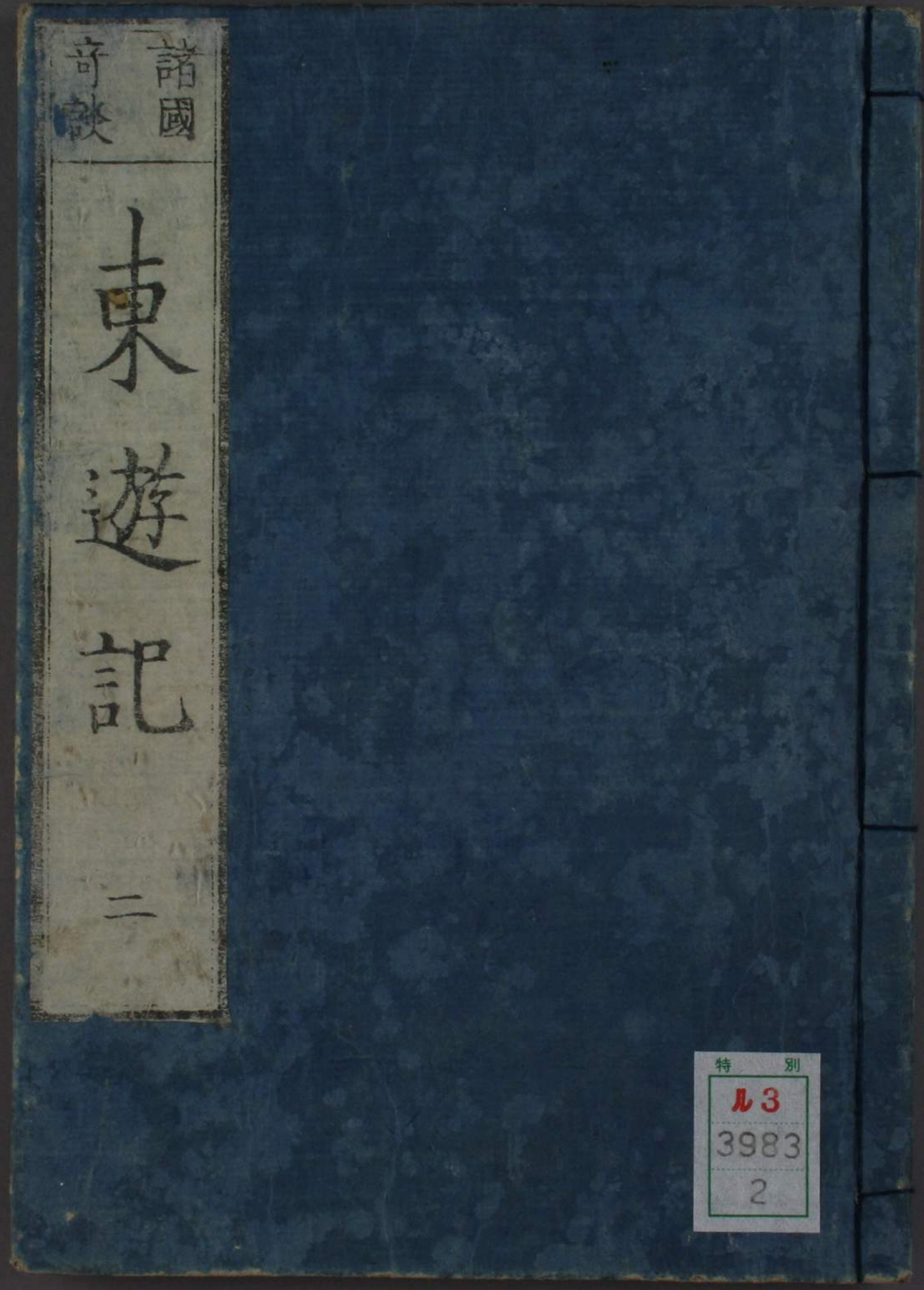
© The Tiffen Company, 2000

KODAK Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



諸國
奇談

東遊記

二

特 別
ル 3
3983
2

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23

103
3923
2

○胡沙吹

吳月溪画

○藤樹先生

○阿古屋松

圓山應受画

五之卷

○秋田落

○朱谷

○化石溪

○浮嶋

口村孝敬画

○大骨

○金華山

法眼東洋画

○七不思議

五之卷 末

○平泉

浅井義篤画

○三尊窟

上東洲画

東遊記 附録二

<99-1002>

○不食病

五之卷

不食病

大骨

...

...

...

○金華山

○雲洞

○末谷

○蘇御夫堂



東遊記卷之二

松前の津波

奥州津波領之るをくへる中を松前津波の湊
 かく其間終ふ七里必瀾しきりあ方山は乃
 鼻お條々るる水も之口里斗もくも連も人
 け之るをよ遠るて一夜は家のくもあわら
 の老人あつめさし家内の祖父母孫あつめ
 圍が裏まはるあつめさし山物物あつめさし
 彼者たあつめさしあつめさしあつめさしあつめさし



津波は福ちあふしうらうらうとあふびきまじく佛
 神をあらうと免れよくち流しゆりて其苦も
 つらうらうと打ちうらう人間甚時まて雲霧あふ
 ぶらうと海邊乃者皆強しせしがるま定てし
 方まもすらびまひてんと云勝まのあつ
 いらうと年あつてまらうやと問ふは具は風も
 静し雨もまらうしう馬にまらうくやめを氣にま
 くらうとまらうとまらうとまらうとまらうとまらうと
 した西の雲をひき流しとらああつ漸くままま

且つは又日取まらうまらう白晝あもいろく乃神く
 虚空とを流し流しを冠まて馬とにまらうも
 けり或の龍まらうのまらうやまらう或の犀象はたぐひ
 まらうの白まらうのまらうもあつ赤た青まらうの
 知まらうとまらうも赤たあつとまらうとまらうと
 其形乃佛神室中にみちくまらうと東西まらう
 玉ふ我くもまらう知つてまらうくまらうとまらう
 まらう不思議なりまらうまらうまらうのあつらまらう
 まらう四五百もまらうまらうまらうまらうまらう

方とんやまのりま白く雪は山乃た
 その遠くはゆあるまふ又婦きなるこの海
 小知本まはれつらふだんく小をきありま
 ありくそく是えし嶋山のと打然く来るる
 大浪乃おあふるす津波をゆる也途く老
 若男女我をばく途迷ひしうと去ばしう方に
 おあつて民屋田烟草本禽獸まうく少くも妙らに
 海底はみくづと會ひ生ある人民海邊の村里
 小いま人もかー我くは遠くまふよ浪敷千

里江沖より身りて其島まきし中乃く破
 途は流くよま本さひもくさるくさるく只一トま
 ありきまはれりいふるまをいふ事ある人なり扱
 ら我初小神くのや中と居たり一途ひけるいび大
 愛あるる成まらくそく世地と途まらひ
 一ありべくしひ金し思は付らぬと流りぬ其
 舞ありりるに中ひとの老人は皆まのありえ
 えくはくはに流くまぬけまきくさひ合すれは我友
 毎諸國乃脚几耐石是れはあく海辺とをりし

海乃底より潮をさぐるもあつく川と逢ふゆりより
舟一疋をて大よ路をた大変ありと鐘をあひ海
嘯とふものあつくやおろひるもと河をよとを年
月世はふ事よりす人々山海遠はけ時皆何の事
海の底大い潮湧をらとく鐘を切せと何事のみ
あつてもいじりしりの被松前の波をえんきの書北溟一
面ふ事きしとみへり減ふ希代乃路よりくね又
海世のふるもなるべきなりはり

寒氣指と海ス

小國乃人翁らふるも氣を人雪と侵せ血凍り
氣のゆらぐゆらぐもあつとわく暖まるとゆらぐ
比呂の指皆あつとあつとやがて蘭の海も
いふ小瘰癧は加じても治しとまきめの人余もけ
病人とさるる人々もさるるやとる眼瘻の瘰癧
なるべしといふも甚しき指の海も
るはあつとあひすもあつと北地あつと
よ指びてとさるる人々のあつと
畜養もさるる指はあつとあつと出羽國秋田領の内

小枝乃感

越中ちゅうちゅうの小枝こえだよりふりかへりて三月みづかより
 北國きたくにのなほの路みちを横よこし雪ゆきよみづき途みちを
 兼つふふに旅りょの末すえ二人ふたりさびしき雨あめ合あ羽はよ日ひあまた
 破やぶきしる御ご伴ばんおしけかどしけ破やぶれを
 おし持もちたあまらぬお物もの志しどけき骨せ自みづかい
 こえ歩あゆみかきしる手てはありしうらみ
 人ひと目めもあまなく念ねん願げんしなき
 くは先さきもあけつるまきぬし心こころは遠とほく
 下しもの道みちは

新島



だなくともおどろ所の片付おぬもやあまき必
 色く乃正なるふいひのうすももるまもしんがう
 一あしうる也しく只押しあんたなる也人
 いふ七教のしんもまもしんといひもはれはれなく
 小形も初りぬあ茶茶をまあし梅ふよ彼男も同
 しく体居く彼れもがういしんも又もまも人
 しくつひかそ龍もまもまもあも魚へかまも門人ま
 新初よりすぬ龍もくおらりしがあまもまもまも
 しくへうきてけ男もまもあも者よまもまもまもまも

て物くのうしすたなくもあまもはれしんもふりま
 せまふりしんもまもまもはれまもはれまもまも
 且一人まも食喰れとあまもまもまもまもまも
 且小まもはれ白龍も魚腹もまもまも徳具もつりまも
 虎豹犬羊はれはれ皮はれまもまもまもまもまも
 まもまもまもまもまもまもまもまもまもまも
 たるまも人まもまもまもまもまもまもまもまも
 一人まも世徳も知るのまも同なりまもまもまもまも
 て富山小まもまもまもまもまもまもまもまもまも

さるゆめとてありといひく遠方せしる遠近乃人
多くかく診視とて山人よしくぬがく客舎を夜群
集せしふ一夕系法乃席をば留り津より出さば
富山の人ももてわけて見らむ

名立山朝

知後玉急魚川とてまは清くのらに名立しり山驛
あつとち名立下名立し二つ小舟とては船敷も多くな
手建も大よしくく公さあくくは船昌のふかからんと下
しもに南よ山は負ひして小海は降る地なりはる

は今年より二十七年は名立よと名立はくしり山
二つ小舟にて海中よ客も入上り一躍り人馬驚大と
くく海底よ没入もさるりてさる山のつ今もあま
きくま白くしと壁乃しくくまの余も世帯下名立
よ一者しと所は人よ其まうしゆ中もよとゆく下
はくまはゆめとてしとては名立乃驛ハ津より
事かまは熱しと漁船と家業とすもは其夜ハ
風静しとて天をたよとてはくあつとて一驛
の者とも夕をさるりしとてはくあつとて一驛

くの鯨乃船を沖をくして帰るに名を
 新く申八里も十里も出くはるに
 地元の舟へ頼まば名を呼ぶ角へ
 なる船夫火事しくん百はく大に
 の燈にせぬ人一刻もあけぬ
 一と母と子とて家に留りては
 一もがしげをきあがり火事あり
 一と母と子とて家に留りては
 一もがしげをきあがり火事あり
 一と母と子とて家に留りては
 一もがしげをきあがり火事あり
 一と母と子とて家に留りては
 一もがしげをきあがり火事あり

舟より一と時刻をやりて夜まるに
 くともかく只一ツ大なる鉄砲と
 一と母と子とて家に留りては
 の山二つよと身をそ海に沈し
 家二軒も海に灰走り男女馬
 のみくつとせたり一に中よ只一人
 乃枝よかりあう波のよはるて
 一と母と子とて家に留りては
 一と母と子とて家に留りては
 一と母と子とて家に留りては
 一と母と子とて家に留りては
 一と母と子とて家に留りては
 一と母と子とて家に留りては

あつたうーいせ海よも思遠あるに社の火事おぼく
 赤くみえーいせうもきゆえ一譯の者どもあつた海
 集んを飛ませしりいひりひり多きい男子たる者い
 大さく約りよせりーいせなまきい活あさへきよ一い
 西よ集れそく後あきさりーい誠よ因果とやりい
 へさありきさるしとと譯見り余をぬ人にす小大
 地震とさ地を遠方よりんれい赤氣まのなうそ
 火事おぼくなるりのことさり松木の津波の時雲
 中に佛神飛りしあひいふんいふもいなくいある

一

け名之乃驛い古人伝渡(渡)と伝ひ一附一者一多い
 一ふかまいせが神子竹内をまといふ者の家に古伝
 冊とよ持せりといふ具書に
 都といはれし(む)くく者一もうねよ名まは月と云
 是のハ菊多大内を為兼に伝渡死流の時い驛ましよ
 めるわ才なりといふ或説よ順徳院乃御制と云余
 一を短冊と云りいふいづもあつたはさかすりす
 下る人の作のやと云る又名との次よ長渡といふ譯と

いさるたるとなる。よき石橋とかなり。時ハ大洪水の時全
 体もに崩れり。其再興大なる事。以中よと本は橋を
 せし半ハ大洪水の時木の石をり落て水溢まてて
 石の石い恙なくし。橋乃令体換ざる。しり。故に
 橋乃造作公易し。之大なる橋。何れも橋もかくば
 せき。その之橋。以常流の時石の石。ふら。載不朽か
 せ。ハ只木の石。よ。せ。なる。淋。事。か。し。なる。や
 こと。し。又。福。井。の。木。舟。橋。あり。故。あり。し。名
 多。り。い。は。し。越。中。に。神。通。川。は。流。せ。る。もの。よ。不。及

越中乃井通川も富山の城下の所は。多事。以。流。る。是。又
 木大。乃。し。く。東。海。道。の。首。吉。川。根。に。似。し。り。水。と。そ。く
 川。に。流。し。山。流。く。水。の。し。り。是。は。再。春。之。月。の。流。水
 多。し。に。多。解。乃。水。村。の。木。と。塔。舟。多。く。例。道。信。守。の。流
 水。の。し。り。多。し。も。風。の。吹。り。水。風。の。水。堰。は。先。に。南
 上。り。水。の。流。る。川。以。から。し。か。の。し。り。水。堰。は。味。あり。す
 上。に。多。流。乃。木。事。俤。乃。橋。以。築。り。木。け。い。し。り。川。を。り
 さい。し。り。多。橋。と。金。流。も。し。り。先。事。西。乃。岩。小。大。せ。り。
 柱。以。建。く。もの。柱。り。柱。人。大。なる。禮。と。二。木。助。り。遊。

其後ノ舟ハ勢にありありあらずと海をりや西乃
 教ふ多くしりし百餘艘よ及べし川幅乃度き事
 ありしやぶ一其後乃ゆく丈夫なるそと謀目
 と教ふそり預乃舟中二正証多き公せしあありて
 舟亦大なる程をわたりし洪水の時切るふ方りて
 妻居の柱の面をたてし大仏殿の柱より七丈なり退
 くに人のたわめて丈夫と捕へし預はばあざ
 舟は浮たさるそと雲よゆと傍るといへどもそと
 舟は上流よりそと流る事なく指玩おきし橋の換

舟は是よせしりしあまの所家へ川を流るの月さ
 小舟のそとあきて世預の中程に切るとそとあ
 舟は是よせしりしあまの所家へ川を流るの月さ
 小舟のそとあきて世預の中程に切るとそとあ
 舟は是よせしりしあまの所家へ川を流るの月さ
 小舟のそとあきて世預の中程に切るとそとあ
 舟は是よせしりしあまの所家へ川を流るの月さ
 小舟のそとあきて世預の中程に切るとそとあ

越前橋乃乃身橋の類ハ本田路家此造り
 とう一橋といつり謀はけ禎客易の中よわ
 又奥州南部の滝下もみ橋あり是も人
 ふとごも越中の船橋も不及み橋乃ある所
 天下よ衣之ヶ所有りて内越中政方一とま
 一そ外常の橋の長きものハ世人よく知
 而古東海路の足跡此矢刻乃橋なりそ長式
 百八間ありそ是は天下第一と云橋の所は
 くして奇妙ありハ周防の岩園の渡一平橋や

唐画乃てくくふるハ長崎江目鏡橋く
 甲州の橋橋きくして奇なりハ越中の相
 乃橋ありそ外遠國山中ニ無海せる所乃小橋よ
 ち朝つきの橋乃げく橋あり奇妙乃橋あり
 朝つきの橋ハ飛潭水山川ようけ渡せる石橋
 ていうある暗夜といどこの橋のよて
 一明くふなりそ人敵も橋も是えきそ人の
 つ山のおりのく一故よ土佐むしよの朝つ乃
 橋と名付くそやおれき人のいひしけ橋

の下名玉あるまゝありて一と減よともありて
くまも

陸竈

奥明仙臺に赤小田如里に陸竈といふ所あり
陸竈明神といふ所あり地産生亦注名といふ蟹花
の地ゆく家敷も千軒あり婦人持女ありてありて
仙臺を造り人の持眞の場亦あり海に流る地也
船も入りて舟も旅之陸竈明神といふ所ありて廣大
美砥鹿よ一と去来一京とありて一と一と一と一と

さしゆく一と一と人まき信一と一と月参多或は講あり
杯とて九州乃人の宰府の天神よ訪るがごとく
そよ意よ旅智なとも大ありて又多く酒魚物よ
あるまや富りけ社の門と入りてたの方よ袂の
陸竈あり細の蓋ありてそよ上に九輪のどりあり
あり塔心竹り基も袂もて飯もりけ基とて大
袋乃不袂も一と真計吉物とてその蓋もりけとて
新物なり相火袋の正面のよに隣りたる和泉三
帝忠衛敬白の文字あり秀衛祐守府將軍た

ア 時其子の二帝宗討せしと見えり其時の
傍身なくむし一思づくくおもる世燈籠の
子板板小書付する假名文章の燈籠の
るせう成敷ら石具せし書物讀て扱よれた
章へ東山園より代取及き申せし
大子感はいうたうととあうと讀くんるに
舊籍汁奥の細道といふ書よ知る代燈籠の
るべき又書之書物ハ和文のうも知る代燈籠乃
道はさうたらと芭蕉といふ名よはに
おはせぬ

者なるによれたの誰が因もよきと見えり
ア 神代今金と玉江といひて其申ふ
美より是と見えに城は希代の神代今金
清水神代今金の赤きあり青たけり紫あり
口の金時海の色成異う成城あり
各出く水の色と見えりや
齊戒沐浴しと世燈籠と扱
二何よりよせよはま
愛妻あり
時よ
今金の中
し
し

